

平成23年度徳島県立図書館協議会の概要について

I 日時 平成23年11月24日(木) 午後1時30分～午後3時30分

II 場所 徳島市八万町向寺山 徳島県立図書館 集会室1

III 出席者

(委員) 10名中8名出席

井上 京子 驚敷小学校校長、徳島県学校図書館協議会副会長

萩原 秀信 NHK徳島放送局長、徳島県社会教育委員

川西 佳代子 前徳島県公民館連絡協議会主事部副部長

美馬市教育委員会文化・スポーツ課課長補佐

阿部 曜子 四国大学文学部教授

小林 勝美 阿波学会会長・徳島考古学研究グループ代表

竹宮 悦子 徳島県読書振興協議会副会長

徳島市読書グループ連絡協議会会長

桂 豊 コピーライター、徳島ペンクラブ事務局長

板東 美智代 徳島県高等学校PTA連合会副会長

(欠席) 井上 泰男 前徳島県公共図書館協議会理事、前吉野川市山川図書館長
(現吉野川市美郷支所地域課長)

(欠席) 皆川 直凡 鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授

(文化の森振興総局) 総局長

(県立図書館) 館長、副館長、館員

(県立二十一世紀館) 主任

IV 次第

1 開会

2 挨拶 徳島県立図書館長

3 議題

(1) 平成22年度事業実績について

(2) 平成23年度事業実施状況について

(3) 「サービス向上目標」について

(4) その他

4 閉会

V 概要

1. 平成22年度事業実績について

(事務局より説明。)

会長 平成22年度中の入館者数が506,861人となっている。平成15、16年頃は60万人ほどあった。

昨年度は、ジブリ展を皮切りに、大秋祭りなど、文化の森全館を挙げての文化の森開館20周年事業が行われ、相乗効果が期待されたにもかかわらず、その前の年の入館者数をを2万人も下回っている。このことについて、図書館はどう感じているか。

事務局 市町村立図書館の充実により、近くの図書館でサービスを受けていると考えられる。

県立図書館としては、市町村立図書館へ、資料の貸出や情報提供を行い、支援を行っている。県立図書館は、徳島市中心部から離れていることもあり、市町村立図書館が充実してくると、県立図書館の来館者は減少してくるが、今後は市町村に対する支援が重要な業務の一つになると考えている。

20周年事業については、美術館、博物館または野外会場での催しに対する来場者が多く、当館への来館に直接結びつくものではなかったとみられる。

2. 平成23年度事業実施状況について

(事務局より、平成23年度当初予算、平成23年度重点事業「徳島県立図書館デジタル化事業」、同「本でひろがる子育て応援」、「しごと応援コーナー」、「県政情報テラス事業」「貸出カウンター委託事業」について説明。)

会長 デジタル化の予算も今年度当初予算に含まれているのか。

事務局 別予算(緊急雇用対策事業費)である。

委員 資料充実費について、平成23年度当初予算額32,305千円に対し、平成22年度予算が37,105千円であるのはどういうことか。

事務局 平成22年度も当初予算は今年度と同額の32,305千円であったが、補正で国の基金が充当されたためである。

委員 「しごと応援コーナー」の就職活動関係資料の利用状況は？

事務局 若者向けに開始したが、中高年層の利用が多く、若年層の利用が少ないと感じられる。

会長 デジタル化について、どのように目録を作り、県民に知らせていくのか。

昨年度も、児童書を多数購入したが、それらの目録がどのように編纂され、県民や市町村に配布されたのか、疑問に思った。

たとえば、地元広報誌では、市立図書館の新刊情報が知らされている。図書館の目録はどのように存在するのか。

また、どのような資料がデジタル化されたのか、併せて説明をお願いしたい。

事務局 目録について、新刊については、当館のホームページ上で新刊一覧を閲覧できる。児童のページでは、テーマごとの児童書の紹介も行っている。

どのような資料のデジタル化を行っているかについては、当館所蔵の徳島新聞のマイクロフィルム、阿波国文庫(多くは焼失しているが、残存しているもの)、また、国立資料館の蜂須賀家文書もデジタル化している。館内の4台の端末から利用者へ閲覧していただく予定である。

会長 自宅のパソコンからも閲覧できるのか。

事務局 まずは、館内での閲覧を考えている。今後ホームページ上で公開できるものについては、順次公開していく予定である。

会長 目録を冊子で作成し、県民や市町村の図書館へ配布することは考えていないのか。

文書館では、公開できる資料と未公開資料を報告し、県庁から譲り受けた公文書類も公開できる資料を年報の中で一覧表にし、県民に情報提供している。

阿波国文庫などには、たくさんの本類、古文書類があり、見たい人はたくさんいると思うが、今後情報提供を充実していく計画はないのか。

事務局 閲覧できるコンテンツは今後増やしていきたいと思う。利用者に見ていただける形を検討していきたい。

会長 所蔵資料の目録はあるのか。

事務局 現在は、検索システムに切り替わっている。

会長 「子育て支援コーナー」も「しごと応援コーナー」も、そこに行かないとどんな本があるのかわからないのか？

事務局 要望があれば、必要な資料を一覧にして提供するとともに、相談なども行っている。

会長 図書館は、郷土資料について、古文書等の資料を多数保有し、整理ができていないと聞いている。県民はこれらを見たいという要望を持っていると思うのだが。

事務局 寄贈資料で一部未整理のものはあるが、古文書では未整理の資料はない。

委員 デジタル化事業は、外注か。予算額は？

また、子育て支援事業の予算はいくらか。重点事項であれば、当該事業の予算もわかるようにしてほしい。

事務局 子育て支援事業は、予算額600万円、うち560万が資料費で、今年度当初予算額に含まれている。

デジタル化事業は、平成22年度から23年度にかけて行っており、予算額は、総額で約9千万円である。23年度末で事業を終了し、24年4月1日から、県民へのサービス提供を開始する。また、ホームページでも見えるようにしていく。

委員 利用者の、年代別、性別構成や満足度はどのように把握しているか。

事務局 評価ができていない。評価は必要なことであり、実施方法を検討している。満足度を高めるための改善を行っていきたいと考えている。

会長 5年前には、図書館に事務職員がいて、アンケート等のデータを収集し、協議会へデータ提供を行っていたが、事務が21世紀館へ集約されてからは、データの収集が行われていない。

事務局 会計事務の統一を行い、行政職員を21世紀館へ集中化した。

事務職員はいないが、司書職員がやらなければならない。

副会長 就活支援、学習支援など今のニーズに合ったものを前向きに行っているが、どれくらい対象となる人が知っているかと疑問に思った。

現代の学生にとって、情報は自ら得るものでなく、与えられるものとなっている現状がある。情報は提供してあげないと手に入れられない。また、若いお母さんの中には、学習支援の必要な子を持つ方もいて、情報を求めているが、情報にたどり着けない。多くの人が、存在を知ることができるよう工夫してほしい。

事務局 PR費用もなく、市町村や教育機関へのPRも積極的に行う必要があるが、周知不足は否めない。ホームページをより充実して、親しみやすいものにするなどの工夫はするのだが、図書館ホームページの閲覧に結びつきにくい。デジタル化を含め情報提供の工夫をしたい。

会長 窓口業務の委託について各委員から、感想、質問等はないか。
以前は、臨時職員や非常勤職員が1～3年間の任用期間で雇用され、窓口業務を行っていたのが、民間業者へ委託され、雰囲気も変わったかと思うが。

事務局 おおむね好評である。貸出業務と返却業務を委託し、司書資格を持った19名の職員が従事している。
図書館では、専門性の高い業務を行うこととし、これらの成果を図ることは難しいが、さまざまな業務に精励している。

3. 「サービス向上目標」について

会長 平成19年度から23年度までの5年間の施策の実施に関し、アンケートを実施するなどして達成度を測り、今後5年間の計画に活かしていただきたい。

事務局 評価は重要であり、結果は運営に反映し、満足度を高めていく必要がある。

委員 ハイブリッド図書館というのに個人的に興味を持った。
自身、以前は、図書館で情報収集を行っていたのが、今ではインターネットになっている。将来を見据えたハイブリッド図書館は、どのように進んでいくのか。
人間はアナログにできていて、子どもの教育においては、印刷物で読むのが正しいと思っているが、たとえば「DVDをネットで注文、ポストで返却」という時代になってきて、本でもそのような時代になっていくのか、と疑問に感じている。
「もし、自分がこの図書館を運営する立場であったら」と考えた場合、究極的には、図書館というのは、アナログの本を借り、読むことができる場所であり、これを一番活かせる方法は何であろうか、人間の向上のためにアナログの本をどのように活かすことができるだろうかという視点で、印刷された本を見直すべきではないかと考える。

委員 新たな5年後を見据えたサービス目標ということであるが、5年後といわず10年後を考えたときに、確実に人口は減っている。現状維持といっても、このまま続けていって大丈夫なのか。

委員 文化の森におけるイベント時の連携について、関連資料が図書館にありますというような、誘導の文言があれば、借りる借りないにかかわらず、図書館を覗いてみようという気持ちをおこさせるのではないかと。
就職支援コーナーは、新聞でも見たが、本当に学生は就職氷河期で困っている。
学校にある資料が、図書館にもあるといった状況なので、生徒は図書館へ来なくても、学校で先生の指導を受けながら利用できる。一方で、卒業後3年間は新卒扱いになるので、卒業後も気軽に利用できるような工夫をしてほしい。

委員 図書館での重点事業を県民に知ってもらうために、市町村の広報をもっと利用してほしい。地域に情報提供をしたらどうか。

委員 サービス向上目標について4つの課題を挙げられているが、「レファレンス」という言葉が、多く使われすぎているので、集約されてはどうか。
県立図書館が考える論理、ニーズではなく、利用者のニーズをくみ取っていただき、頼りにされる図書館を目指していただきたい。

携帯用ホームページも、興味深くみていただけるようレイアウトを工夫してはどうか。

ホームページも、一発で図書館にアクセスする人はあまりいないので、たとえば、医療の例であれば、病院のホームページから図書館ホームページへのリンクを張るなどして、双方向性を高めれば、もっとリアクションが得られるだろう。アクセス数も評価の一つの指標である。

委員 図書費の増額を請願しました。

4. その他

総局長 IT化、電子図書の普及など図書館運営は、難しい時代を迎えていると思うが、文化の森の利用者の牽引役は図書館が担っている。

他館との連携に関しては、たとえば手塚治虫展開催時には、図書館で同コーナーを設けるなど他館イベントとの連携をとっている。一方で、他館のイベント時には、図書館を利用する方が混雑を予想して来館を避けるなど、利用者の増加に繋がらない場合も考えられる。工夫が必要であると考えている。また、今後5年間の目標については、本日いただいた意見を参考にして期待に添えるよう検討したい。

会長 土、日、祝日には、駐車場が満車になる。文化の森を集合場所にした旅行なども実施されているようであるが、文化の森を利用する人に迷惑がかからないよう、注意をしてほしい。